

今高生から今高生へ

おすすめの本

～ 図書委員が薦めるブックリスト～



2009.11 今宮高等学校 図書館発行

『獣の奏者』

上橋 菜穂子著

私のオススメの本はこの本です。

ファンタジーをあまり読まないという人でもスラスラと読めてしまいます。

主人公のエリンに襲いかかる悲劇がとても、読み手にも伝わってくるので、自分も登場人物のような気持ちになります。

アニメでも放送されているので、それを見てから、というのも大丈夫だと思います。

<アニメと原作では少しだけ展開が違う所があります。>

闘蛇編と王獣編で完結とありますが、8月10日に探求編と完結編が発売されたので、ぜひ読んでみてください。

『推定少女』

桜庭一樹著

主人公、巣籠カナ15歳は、パトカーに追われている。罪状は過失致死もしくは過失致死未遂。捕まっていけない、と思った時には、足がすでに動いていた。パトカーから逃げるために入った路地で、カナは不思議な少女に出会う。彼女は宇宙人か、人間か。カナの人生は大きく変わる。

現代の子供が抱えている、形容しがたい気持ちが、見事にことばで表わされています。子供の定義、大人の定義とは何なのか、考えさせられる物語です。

エンディングはハッピーエンドとバッドエンドが3つあります。

『スノーグース』

ポール・ギャリコ著

この「スノーグース」は、ギャリコの作品の中で最も有名です。

これは、画家の男と、傷ついたスノーグースをかかえて男の前に現れた少女の、悲恋物語です。

この話の中で、男は少女に思いを伝えないまま、戦争へ行ってしまう。

しかし、最後のシーンで男の魂がスノーグースとなって、少女に別れを告げるところでは

きれいな夕焼けの景色が目浮かぶようで、とても感動させられます。

読み終わったあとも、すっきりしていていいと思います。割と短いので、すぐに読めると思うので、一度読んでみてください。



『フライ、ダディ、フライ』 金城 一紀著

メッチャおもしろいです。どんぐらいおもしろいかというと、あんぐらいおもしろいです。要するにメッチャおもしろいということなんで、ぜひ読んでみてください！！
あと、それとこれ、ザ・ゾンビーズ シリーズってやつ第二弾なんです。第一弾から読んでください。メッチャおもしろいんで。
二冊ともセリフがかっこよすぎて思わずテンションあがります。最後が特にやばい！ちなみに第三段出てます。まだ文庫じゃないんで読んでないけど...高くていいなら...

『容疑者 の献身』 東野 圭吾著

私のお勧めする本は「容疑者 の献身」です。
人気のガリレオシリーズの1つで、物理学者の湯川が事件の謎を解いていきます。全体的にひっそりとした雰囲気、その中でハラハラドキドキする出来事が繰り返され、読み出したら止まりません。
何ととっても事件の真相が……。これ以上は残念ながら書けません。ぜひ自分の目で確かめてみてください！！

『100回泣くこと』 中村 航著

この本は恋愛小説で、王道ともいわれる「恋人の死」をテーマにしながらも、他の小説とは違い、それぞれが共に自立していながらも支えあっているような爽やかなイメージを受けます。すごく現実味があり、主人公の「僕」が会社で泣いてしまう場面は心に残りました、この本に出てくる「健やかなる時も～」という言葉は、結婚式で有名ですが、よく読んでみるとこんなにも綺麗な詩だったのかと驚かされました。
ぜひ読んでみてください。

『名探偵の掟』 東野 圭吾著

ドラマ化にもなっただけあって、とてもおもしろいです。小説のルールはすべて無視したこの本は見事に期待を裏切ってくれます。また、天下一と大河原警部の会話にも注目です。長年、本格推理ファンから圧倒的支持を集めていただけはある本だと思います。

『ベッキーの心のとびら』

Becky著

タレントとして活躍しているベッキーさんのエッセイbookです。ファンタジーでも難しい小説でもありません。ただベッキーなりの言葉が並べられています。だけど、その言葉たちはとてつもなくあたたかい気持ちになります。

「苦しいかもしれないけど、ぐっところえると強くなれる気がします。ストレッチと一緒に。

一回目ががんばれば、その次はちょっと楽になる。耐えることは、心のストレッチ」

つらい時、悲しい時、読むたびに元気をくれる本。ちょっと気持ちが安らぐ本。そんな本はなんだかちょっと素敵だと思います。

『Zoo』

乙一著

この作品は、著者である乙一のジャンル分け不能の短編集が、「1」「2」に分かれたものです。

「1」には、映画化された5編が収録されており、「2」には驚天動地の6編に加え、特別収録も含まれています。

「1」 双子の姉妹なのに、なぜか姉のヨーコだけが母から虐待をされ....。(カザリとヨーコ)

「2」 目が覚めたら、何者かに刺されて血まみれだった資産家の悲喜劇。(血液を探せ！)

などを収録しています。ぜひ読んでください。

『下妻物語』

獄元野ばら著

四方八方田んぼだらけの茨城県下妻。そんな田舎で浮きまくりのロリータ少女・桃子は、大好きなお洋服欲しさに始めた個人販売で、これまた時代遅れなヤンキー少女・イチコと出会う。見た目も趣味も全く違うこの二人。わかりあえるはずはないのに、やがて不思議な友情が芽生えて。映画化もされた、ギャグ満載で思いっきり笑えて、最後には心があたたかくなるような、そんな作品です。

『余命一カ月の花嫁』

TBS「イブニング・ファイブ」編

私はこの本を読んで、自分は毎日を一生懸命に生きているのかということ、考えさせられました。乳がんと宣告され、つらい治療を受けているにもかかわらず、笑顔で必死に生きた千恵さんを尊敬しました。また、千恵さんを支えた人々の優しさに感動し、「生きる」ということはどういう事なのかを考えさせられました。

「毎日、なにしてるの? (太郎)」 「生きてる(千恵)」

本の中に出てくる二人の結婚式の写真を見ると、こんな会話は想像もつきません。

この本からたくさん『生きること』だけをがんばった千恵さんから、

きっと何か感じるができると思います。

『凶夢ほか』

星 新一著

星新一の代表的な「ショートショート」つまり、一編は小説よりも少ない約3ページの独立した話で、その一つ一つに「オチ」がある。それは、漫才のようにドツと笑いがこみあげてくるものや、推理小説のように納得するもの、さらに社会を諷刺するような言葉で締めくくるものもあり、全30編は3週間じっくり読んでもあきがこない。

図書館にも星新一の作品が置いてあるので是非見てください。

『狼と香辛料』

支倉凍砂著

「わっちはホロ。賢狼ホロじゃ」

急な出会いで始まった、行商人ロレンスとホロと名乗る少女の旅。商人の話などでカタイ感じかなあと、最初の方はよくわからなくてもページをめくって読んでいく度に、その世界へ引きずり込まれていきました。独特な喋り方でなかなか侮れないホロの可愛さに、アナタもトリコになってしまうかも……! ? 巻頭には文倉十さんの綺麗なカラーイラストもあります。今現在、十二巻まで出ているので今日を持った方は是非読破してみたいかがでしょうか。

アスキーメデイ



『心霊探偵八雲』

神永学著

生まれつき右目が赤い斉藤八雲。その右目では死者の魂を見ることができるという能力を持っています。その目のせいで母親に殺されそうになり、心を閉ざしたまま育っていきます。大学生になった斉藤八雲はある事件を通して小沢晴香という同じ大学に通う大学生と知り合います。そして、いくつもの事件を共に凄し、斉藤八雲はだんだんと心を開いていきます。この本はただ推理するだけではなく、人との関わりなどについても色々考えさせられます。ぜひ読んでみて下さい。

『鴨川ホルモー』

万城目学著

この本は「ホルモー」を軸に、笑いあり、戦いあり、恋ありの物語です。ちなみにこの本の主となる「ホルモー」。いったいこれは何なのか。簡単に言うと一種の競技です。平安時代から知る者だけが知り、伝わる者だけが伝えてきた「ホルモー」。安倍は京都三大祭のうちの一つ葵祭で、ずいぶん馴れ馴れしい男、高村と出会う。そんな時、京大青竜会という変なサークルに勧誘される二人。そのサークルこそが、「ホルモー」への始まりだった。京都を舞台にさまざまな人間模様がうずまく中、「ホルモー」に関わる大学生達の青春物語。

『あさきゆめみし』

大和和紀著

この本は、受験生の間では有名なかもしれませんが、あの歴史超大作「源氏物語」を漫画化した単行本です。漫画だからと言ってばかにできないのが、現代人にはなじみにくい古典常識もよく分かり、源氏物語の問題を解くのにとても有効なものです。ただ。絵のタッチが高校生の特に男子にはきついかもしれませんが、読む価値は確かにあり、図書室にもおいているので、一度読んでみて下さい。



『間宮兄弟』

江國香織著

酒造メーカーに勤務している兄・明信(三十五歳)と、小学校職員の弟・徹信(三十二歳)の心温まるストーリーです。二人とも心根のやさしい兄弟であるにもかかわらず、恋人のいたためしがありません。しかし、この間宮兄弟が開く「おでんパーティー」を通じてであった女性達は、間宮兄弟の温かさや純粋さに触れ彼女達自身の人生も少しずつ変化していきます。映画化された小説なので知っている人は多いのではないかと思います。何かに癒されたい人は、ぜひぜひ「間宮兄弟」を読んでみて下さい。何かが変わると思います。

『姑獲鳥の夏』

京極夏彦著

私が推薦するのは妖怪・推理小説で知られる京極夏彦さんの処女作、『姑獲鳥の夏』です。一見難しいそうだとされるこの本ですが、魅力的な個性を持つ登場人物、推理不可能ともいえる入り組んだ謎、ページをめくる手はとまりません。『百鬼夜行シリーズ』と称されるものの一作目にあたるこの本は、二十箇月もの間子を身籠る女、密室からの夫の消失、見覚えのある少女、様々な「不思議と思われる」事柄に、“古本屋兼陰陽師”の通称「京極堂」が追っていくストーリーです。とにかく面白いの一言です。是非読んでみて下さい。

『京大芸人』

菅広文著

高学歴コンピとしてお馴染みのお笑い芸人・ロザンの菅が、芸人なるために相方の宇治原を京大に入れる奮闘をした高校時代を綴った自叙伝です。二人の出会いから大学受験、そして芸人に至るまでの話が淡々と書かれている中に思わず笑ってしまうような場面もあって、とても読みやすいです。宇治原さんが京大に入るための独自の勉強法も記されているので、楽しみながらもタメになります。ロザンが好きな人は勿論、受験生の方にもオススメできる一冊です。



『「わからない」という方法』

橋本治著

まず最初にタイトルに注目してほしい。「わからない」から方法を探すことはあっても、「わからない」を方法にしようとするとは考えたことがあるだろうか？そもそも「わからない」が方法になるの？それってどういうことなの？

別にこの本は『「わからない」が「わかる」になる』正解は一切くれない。だが、「わからない」が持つ可能性のヒントをさりげなく転がしてくれることだろう。主張は至ってシンプルかつ始終一貫されているので、読み飛ばしてもイイトコ取りも大いに結構だと思う。「わからない」は怖くない！

『ジョジョの奇妙な冒険“黄金の風”』

荒木飛呂彦著

主人公ジョルノ・ジョバーナ(ジョジョ)がギャング「パッショーネ」で憧れのギャング・スターへと登りつめていく姿と彼の仲間との逃避行を描いた物語。

絵を見た瞬間正直読む気を失ってしまっていますが読んでいくうちにこの独特な絵の良さも理解できます。あとジョジョには名台詞もたくさんあります。例えば「ブッ殺す...そんな言葉を使う必要ねーんだ。その言葉を頭に思い浮かべたときには殺っちまってるからだ、だから使ったことがねエーブッ殺したなら使ってもいい」他にも「根掘り葉掘りきき回る...」続きが気になる人はぜひ読んでください。

『緋弾のアリア』

赤松中学著

舞台は近未来東京。増え続ける凶悪犯罪に対抗すべく、武力探偵「武偵」が活躍する世界。武偵高二年生、遠山キンジは始業式当日、自転車ジャックされる！？しかも、それを救ったのは身長百四十センチ程度の美少女で！？

主人公、「遠山の金さん」の子孫キンジを始め、ヒロイン神崎・H・アリアはシャーロック・ホームズ四世。更にその宿敵、アルセーニョ・リュパン四世である峰・理子・R、更には吸血鬼ブラッド・ツェペシュご本人、ジャンヌ・ダルクの子孫まで出てきてしまう歴史的有名人大集合のストーリー！

銃弾飛び交う壮絶なストーリーは、一度読み始めたら止まりません。

歴史の英雄や、銃器の好きな人には是非おススメです！

『生徒会の一存』 葵せきな著

かつて、ここまで自由でぶっ飛んでいるライトノベルがあったか！？
著作権ギリギリネタの飛び交う、生徒会の日常風景を切り取った作品。
主人公であり、生徒会副会長、杉崎鍵はイケメンではあるがギャルゲ好きの美少女フリーク。そして残りの生徒会メンバーは美少女美少女美少女美少女！！！！
生徒会室の中で始まり、生徒会室の中だけで終わる日常記録……それがこの超問題作品。
舞台は小さな生徒会室の中だけなのに、無限の広がりを見せる生徒会を覗いてみませんか？
同作者の「マテリアルゴースト」も温かく、切ない泣ける名作です。富士見書房刊

『江戸川乱歩傑作選』 江戸川乱歩著

日本における本格推理小説を確立したばかりではなく、恐怖小説とも呼ぶべき芸術小説をも創りだした乱歩の初期を代表する傑作9編を収める。特異な暗号コードによる巧妙なトリックを用いた処女作『二銭銅貨』苦痛と快楽と惨劇を描いて著者の怪奇趣味の極限を代表する『芋虫』他に『二癡人』『D坂の殺人事件』『心理試験』『赤い部屋』『屋根裏の散歩者』『人間椅子』『鏡地獄』この秋、江戸川乱歩の織り成す着想の卓越さと強烈なスリルとサスペンスを感じてみたい今高生に是非おすすめしたい作品です。

『涼宮ハルヒの憂鬱』 谷川流著

『ただの人間には興味ありません。この中に宇宙人、未来人、異星人、超能力者がいたら、あたしのところに来なさい。以上！』高校入学直後の自己紹介で、突然こんなことを大真面目に言い放った美少女、涼宮ハルヒ彼女の前の席だった主人公キョンはこの奇天烈少女の暴走に嫌々巻き込まれてゆくことに…。
今やものすごく有名になった大人気ライトノベルの第1巻。なぜハルヒの周りに都合良く現れる宇宙人や未来人や超能力…不思議でおかしな面々が繰り出す非日常。主人公キョンの目線で語られる小気味よいテンポの物語に、一度ハマってみませんか？



『魔王さんちの勇者様』

はむねば著

「勇者？起きなさい勇者！」なんていう優しさはカケラもなく、父親にいきなり異世界に放り込まれた水上澄人(16)職業:世界を救う勇者。そこに待ちかまえていたのはRPGでお馴染みの展開！「私に従うのならば命だけは助けてやろう」なんてありがちなセリフとともに高笑いをする魔王にあたり「あ、そっちでお願いします」なんて言うテキトー勇者、水上澄人となぜかシャンプーを出せる”勇者のみが使える”とウワサのしゃべる聖険「ジョンボム」がおくる魔王城でのほのぼの系感動ストーリー！ギャグじゃないよ！



『名探偵の掟』

東野圭吾著

私がお薦めしたい本は、この春ドラマ化もした「名探偵の掟」です。私が今まで読んできた本の中で、いろんな意味で一番驚かされました。推理小説なのにそれを言ってしまったら...という、“お約束”を破りに破りまくった作品です。東野圭吾が創り出す不思議でおかしな世界に引き込まれること間違いなしで、読み始めたらページをめくる手がとまらなくなっちゃいます。ミステリー好きもそうじゃない方にも是非読んで「そんなんアリ？」と思っていただきたいです。

今年も「今高生から今高生へおすすめの1冊」を作成しました。

図書委員の人たちがたくさんの本を紹介してくれています。

図書館にそろえていますので、是非図書館に足を運んでみてください。

